

## 平成24年度 第1回西成区区政会議議事録要旨

1 日 時 平成24年6月5日(火) 14:00~15:50

2 場 所 西成区役所 4階会議室(4-5・7)

### 3 内 容

【案件】( ) 内説明者、> 発言要旨

> 委員長：本区政会議は昨年8月から行い、今回で第5回目になる。第1回目は区政会議について、9月の第2回目は防災とイメージアップについて、11月の第3回目はあいりん地域あるいは自主的なまちづくりについて、今年2月の第4回目は平成23年度の区の事業評価及び、西成特区構想についての意見をいただいていた。中でも、西成特区構想については、生活保護やスーパースクールなど様々な課題が検討されており、全てが区民の方が思う西成特区構想ではないかもしれないが、全て西成区に包含されている課題ですので、そういう事を考えながら今日も様々な意見をいただきたい。まず、事務局より「新たな市政改革(素案)の公表について」の説明をしていただきたい。その後「西成特区構想」の「①結核対策について」と「②イメージアップ推進等について」を意見交換いただきたい。

(1) 新たな市政改革(素案)の公表について(柴生総合企画担当課長)

> 区：今回、「市政改革プラン(素案)」の中の概要版を資料として付けている。「市政改革プラン(素案)」自体はかなりのボリュームになるため、本日は中身の議論ではなく、全体的な流れを紹介させていただきたい。先日公表されて以降、一般の方からの意見を19,000件ほどいただいたと聞いている。この意見を踏まえて6月の中旬以降に「大阪市市政改革プラン(案)」の取りまとめがされ、市会での議論を経て、最終的に7月末に「市政改革プラン」として策定することとなっている。概要版の中では、区役所の役割が区民の方と接する中で重要になってくるということに基づいて、今後の市政あるいは区政運営の概念が書かれている。

(2) 西成特区構想について(栄事業調整担当課長)

> 区：まず、この間の経過を報告させていただく。3月下旬以降、プロジェクトチームから出されたアイデア例について「地域で取り組む子育て支援」「人をよびこむまちづくり・観光振興」「地域環境改善」のテーマ毎に幹事会を設置

し、この間の課題も含めた洗い出しをおこなった。また、3月27日に特別顧問に就任された学習院大学の鈴木教授と、4月5日以降、アイディア例やあいりん総合センターなどについて、各関係局の事業の現状や課題などのヒアリングをおこなっている。また、4月20日には橋下市長と区民の方々、また学識者の方々と懇談会を開催した。今後について、西成特区構想で平成24年度に実施可能な事業として「結核対策」あるいは「西成区イメージアップ推進事業」などがあがっている。また、「西成特区構想基礎調査」については、学識経験者や有識者からなる「有識者座談会」を6月11日夜7時から開催し、秋頃には大きな方向性を示したい。

>委員：有識者座談会については、報道されたメンバー以外でも可能であれば参加できるようにしていただきたい。

(2) 一①結核対策について（健康局：吉田医務監兼保健所感染症対策課長）

>区：大阪市は全国で1番の罹患率となっている。その中でも西成区とりわけあいりん地域は特に罹患率が高い。これまでも「第1次大阪市結核対策基本指針」で具体的な取組みをおこない、10年間で半減させてきたが、昨年3月に「第2次大阪市結核対策基本指針」を策定し、平成21年度から平成32年度までに罹患率を大阪市全体でさらに半減させることを目標として平成32年度までの10年間で同じように取組みを進めてきている。実数で示すと、平成21年度に西成区で1年間に発病した患者数の290人を平成32年度までに145人以下に、あいりん地域では165人を80人以下にという目標をたてている。しかし、その後この西成特区構想の平成25年度から約5年間の期間ということで、さらに予算と人をつぎ込んで構想の最終年である平成29年度に本来の計画から3年前倒しをして達成するという目標値を設定している。今後、補正予算が成立次第、具体の取組みを進めていきたい。

>委員：私たち医療機関も結核患者を減らす取組みが必要だと思い会議等をしている。できるだけこの対策に協力していきたいので今後ともよろしく願いしたい。

>委員：やはり生活保護受給者の患者が多く、受診率も低いということで、検診を受けていただくアプローチの方法はどういったものかを考えているのか。

>区：積極的に呼びかけ、1年以上検診していない方には検診をすすめていく。新たに生活保護を申請される方にも手続きの中で触れていただく。また、医療機関への受診時に1年以上レントゲンを撮っていなければ主治医からも勧めていただくと言ったような、いろんな働きかけをしていき、特に65歳以上の方

には必ず受けていただくようにしていきたい。

>委員：DOTS（服薬支援）実施者の集いを定期的を開催してもらっているが、その場所や団体をできるだけ広範囲に作っていただきたい。

>委員：現在結核を発症している人を的確に多く把握する事が大事。なぜ65歳で区切っているかという、高齢者はやはりいろんな疾患を抱えている方が多く免疫機能が少し落ちてきてやはり発症しやすい面を持っているため。そして生活保護受給者については、今まで苦しい生活をしてきたことから、若くても免疫機能が落ちていることもあるため、65歳以上の方と同じように発症している方が多い可能性がある。やはり、少しでも患者数を減らしたい思いで市とも考えているので、今後ともよろしくをお願いしたい。

## （2）—②イメージアップ推進等について（柴生総合企画担当課長）

>区：「西成特区構想」が打ち出されて以降、メディアなどの注目を集めるなか、ともすれば、「あいりん地域」における諸課題だけが注目され、マイナスイメージが先行してしまうのではないかという意見をいただくことも多い。このマイナスイメージを払拭する、西成区のイメージアップにつながる事を打ち出していきたい。本日、「平成23年度 区民モニター集計結果」の概要版をつけているが、その中で、「西成区のイメージを良い1⇔5悪いで表すと」という設問に対して、1・2のとても良い・良いが11.2%、4・5の悪い・とても悪いが57.6%ということで、どうしても区民の方が自分の区のイメージが悪いと認識している現実がある。区としては、少なくともこの数字が逆転するように取り組んでいきたい。西成区には課題ももちろんあるが、十分魅力的な名物なり名所なりがたくさんある。その西成の魅力を世間にPRしていきたい。今後の取組みについては、様々な年代の方が参加できるウォーキングコースを複数作り、一過性のものではなく、マップ・小冊子を作成し恒常的にPRできる仕組みを作っていきたい。また、「健康」と「観光」という視点でウォーキングイベントを開催し、区役所だけにとどまらず商店街や鉄道会社、または大学等とのコラボレーションにより、いろんな西成の魅力を多角的に発信していく。さらに、これまで以上にセレッソ大阪や大阪フィルハーモニーとも連携をしていきながらPRをしていきたい。

>委員：7月14日（土）に「西成区民デー」を開催するが、大阪フィルハーモニーと連携しミニコンサートを開催する予定となっている。また、試合の前座に西成区の子どもたちによる前座試合をやっていただく。他にも西成区民デーが元気になるようにやっていこうと思っている。

>委員：イベントという感覚は大事だと思うが、イベントはその時だけなので

宣伝行為ということ。商店街としては、区内全体を包括して街歩き若しくは商店街を楽しんでもらうといったようなコース、いわゆる街を遊んでもらう、西成区を遊んでもらえるような事を、常時発信できるようなシステムを作っていてほしい。その中で、地域のイベントも組み込んでいてほしい。そういう常時の遊び方を提案する事が大事だと思う。もう一点、北の飛田や山王といった地域は、目の前が浪速区の新世界で少し東へ行くと天王寺、阿倍野区でキューズモールなどが出来上がっている。商業的・観光的にみると、飛田や山王といったところは、こういうところとリンクしていかなければならない。これは非常にもったいない。ハード的には難しいと思うが、ソフトとしてこういう展開があるというのを提示して欲しい。また、レンタル自転車についてなんとかできないかと思う。例えば、南海線の跡地は全く利用が進んでいないが、せつかくの空地なので、そこをレンタサイクルの基地にさせていただいて、利用させていただいたらどうか。西成は自転車で移動するのに非常に良い地形であるし、外国の方も利用していると聞く。そういったことも考えて、外国の方や国内の観光客もたくさん来てもらっているので、利用できるようにして言って欲しい。また放置自転車についても整理をしていただきたい。

>委員：天神ノ森あたりの阪堺線路沿いで、木が電車の走行の妨げになるということで伐採するという貼り紙があるが、情緒のあるところなので、根元から切るのではなくできるだけ景観が良いように必要な分だけ伐採していただきたい。

>委員：商店街の活性化や、観光客の方に多く来ていただくのは大事だと思う。ただ、冒頭の西成区のイメージが悪いと答えた方は西成区民の方であって、このイメージが集客することによって良くなるかという疑問。まず、区民が自分の区に対して持っているマイナスイメージを払拭しないといけない。区民自身が外部に発信できるスポットを見つけたりできる、区民を育てる運動基盤が必要ではないかと思う。

>議員：要望として、こういうイメージアップなどの具体的な事業運営については、区ではなく実行委員会形式などにしてこういった場でいろんなアイデアを出していただく方がより実効性のあるものになると思う。それがまさに区のイメージアップになると思う。区はそれを全力でサポートしていただきたい。

>委員：西成区には古い歴史もあるというのを知っていただければと思う。そして何よりも相手を思いやる力というのを西成区は持っているし、被災地の方も西成区に来られているが、そういった方も地域で支えているというそういう見えにくいソフト面の良さも PR をしていただきたい。

(3) その他—平成24年度西成区運営方針(案)概要版について(柴生総合

企画担当課長)

>区：8月からの補正予算にあわせて、現在区の方で運営方針（案）を策定しているところ。今回資料として配布している分は、全体の概要ということで概要版を配布している。その中で、「西成特区構想」を前面に出したものを基本方針としている。重点的に取り組む主な経営課題として、経営課題2で先ほどから説明させていただいている、イメージアップ推進事業やウォーキングを中心とした「健康」「観光」を結び付ける様々な仕組み、そしてあいりん地域を中心とした結核対策を上げている。また、経営課題3の区役所力の強化というところで、地域担当職員の人材育成などに今まで以上に力を入れて取り組んでいきたい。いずれにしても、今後とも西成区をいかに良い街にしていくかという視点で、区役所としてできる事を最大限に取り組んでいきたい。

>委員：最初の部分で、「人権が尊重され、地域とのつながりを持って、安心して心豊かに暮らせる安全なまちを目指す」とあるが、ぜひつながって、また、必要なら新しいつながりを作っていって欲しい。

>委員：地域でもつながり作りということで様々なことを行っているが、今は生活保護受給者の方が非常に多いので、その方々をいかにまちづくりの方へ参加してもらうかというところで苦心している。

【終了 15：50】